天馬賊 書評

大鴉の落ちる様に

アドリブ派＝全共闘的私考

〈大岳はゆらゆらと立ちあがって、わが手でみづから二つの目を刺した。血は頭幅に跳ねて、まっしろな毛絲をまだらなしぶきで染めた。大岳のからだは大鴉の落ちるやうに、ばさっと音を立てて、石段の下まで一気に崩れ落ちた。〉

司馬遷としての高橋和己

「天馬賊」とは一体何のことだろうか、「賊」がみつぎ物なら「天馬へのみつぎ物」でもあるのだろうか、では「天馬」とは、「みつぎ物」とはそも何か。

本書に登場する人物群はほぼまちがいなく作者の創造物であって実在するものでは（モデルはいただろうが）ないだろう。

しかし、その衝迫力は凡百のドキュメントやルポ・小説などをはるかにしのいでわれわれに迫る。

全共闘とその学園闘争を扱ったあるいはそれに発想を得た書物の類は多いが、実際にそれを荷った者の眼から見た時、鑑賞に耐える作品は極度に少ないと言わざるを得ない。いわば歴史へのハメコマレ過程をある程度経ないと作品としての結晶作用が十分には行なわれないせいであるとでもいえようか。

故高橋和己の「わが解体」など前述の例にもれた希有な作品のひとつであると言われるのだろう。

みづからの文学通りの「解体」過程を「確執する目」をもって描き切ったその筆には暗い情熱を感じて気押されるものがあることは確かなのだが、何かいまひとつ違うのだなと思えてならない。

その違和感はどこから来るものだろうかとみづからに問いつめる時どうしようもない事なのだという答しかおそらくは、ないのだ。

彼の死んだ日は朝からひどい土砂降りの雨で、とある飯場で働いていた私はその死を伝える朝七時のラジオ・ニュースで起こされたのだが、ひどく寂漠たる想いを抱いた事をおぼえている、ベニヤ張りの飯場小屋から現場へ向かう車の中で、フロント・グラスに当たる雨しぶきの音を聞きながら、繰り返し繰り返し胸の中にわきあがってくるのは「これで俺の死を見取ってくれる人がいなくなったな」という想いだった。

今想い起こせばそれは、私が彼に知らず知らずのうちに期待していたものが「現代の司馬遷」としての役割であったことの表われたものに違いない。

高橋が私にとっては「司馬遷」としてあったということ、そして「司馬遷」とは、事の是否曲直はついに歴史に待つしかないというその発想において、当時の権力者の逆鱗にふれることをもあえて辞さずというしたたかさをもつ半面現実とそのはらむ変革運動については、詰まるところ「同伴者」でしかあり得ないということ、すべての違和感はここに因する。である以上それはどうしようもないのだ。

無原則・無苦悩こそ全共闘

その意味において「高橋和己は全共闘的人間とは無縁の人である」と言い切った最首悟の視点は私のものでもある。最首にとって「全共闘」とは「〈自己の原理〉を持たない人間、この世にある苦痛を引き受けられない人間、苦痛として感じられない鈍感な人間の運動」以外ではない。「少なくとも文学という領域を持」ち「この世界にある矛盾とか苦痛とかをきちんと身に引き受けることができた」高橋和己は、ゆえにわれわれにはただ遠いものとしてある…。

本書「天馬賊」のもつ衝迫力とは、あの高橋和己にしてついに近づき得なかったところの「全共闘的人間」を「既成左翼」との対比において鮮烈に描き出した、その鋭どさのもつ迫力に他ならない。ムラキと呼ばれる学生が「全共闘的人間」のいわば典型として描かれていると、私には思える。例えば「ベンキョー」についてムラキはいう。

〈「（前略）大学はいいあんばいに休業と来て、おかげで教授といふサラリーマン諸君の商売に付合はなくてもすむことになってるから、いかさない本のベンキョーといふ課目は今は無い。その代りに、闘争というあたらしい課目ができた。これはおれにはおもいがけない幸運だったな。このあたらしい課目にぶつかって、おれにも思想みたいなものがあったといふことを発見したよ。そういってもおれはまだナマはんかだから、目下たたかふことで直接に思想をベンキョーしてるさいちゅうというわけだ。このベンキョーは気に入ってる。おれは大学にはひってよかったとおもうよ。」〉

「ふらふら」していながら「闘争」につよい、と言われるその有様は最首の文章をそのまま想い起こさせる。

〈全共闘の具体的・現実的闘争の場面では、くだらない人間が、くだらないあり様で、右往左往してしかもそれが全体の運動として非常にラディカルな様を示していた。〉

大逆思想のグリフォン化

この「全共闘的人間」ムラキと老アナキスト・大岳との対話がそのまま本書のテーマになっているようだ。

老アナキスト・大岳にとってアナキズムとはなによりもまず「絶対自由」であり「黙示録の世界に入る」こととしてあった。

神によらず主人によらず、自らのことは自ら決すべし、というのが「絶対自由＝黙示録の世界」の律法なら、それはきびしく「一切のヒューマニズム」を切りゆかねばついに行きつけない世界として大岳に啓示されていた。

しかし、自身の主張にもかかわらず、おのれのヒューマンな心情ゆえに、この十年の年月というものがその世界への入口の扉をより硬いものとしていくのを、為すべもなくうめく大岳だった。

ついに「ヒューマニストの目」を捨て切れない大岳には探娘イズミとそれを取り巻く絶対自由主義的グループ「ムンツェルさんの友」の学生達は「うまれながらの残酷といふ美徳の作用」によって「きわめて自然に、しなやかな身ぶりをもって」黙示録の世界へ飛び去り得るものとして写ったのである。

ムラキとイズミに向って大岳は説く〈「きみたちのばたばたさわぎはやっと狭い柵の中ではじまったばかりだ。それさへさきの見通しがつくまい。どちらかといえば負ける確率のはうが大きいだろう。ただどういふ負け方をするかだな。これが柵を越えてもっと広いところに出たらどうなるか。破壊のあとになにが来るんだと、せっかちなやつがいふ。なにも来そうもない、だめではないかと、くちぐちにののしる。すぐにこれといって目に見えるものがあらはれないのはわかりきったことだ。さう早くなにが来るものか。西洋の歴史では、すでに何世紀にわたってからだった。今にして、運動はやむときを知らないのだから、今後もなほつづく。まあ千年戦争だらうな。おそらく負いくさつづきの千年だ。この千年のあいだ、運動する人間には未来の夢にふけるひまがない。ここにたたかひという事業があり、破壊という工作がある。労働だよ。それだから、生活はたのしいことでもある。（後略）」〉

立派である。スターリニストや社民のセンスではこうはいえまい、「レーニンさんの一派（学園闘争における〈ムンツェルさんの友〉の対立党派・スターリニスト？セクト？）」など相手にもならないだろう。

が、しかしムラキは笑い飛ばす〈「そんな長い時間のことはおれにはとても考へられない」今夜の今が時間もいいとこだ。望遠鏡でのぞくよりも、さっさとあるいたほうが性に合ってるもんな」〉と。

ムラキにとって黙示録的アナキスト・大岳も「しなびた飾物の怪獣〈グリフォン〉」であり「内側にむかってヤブニラミ」の御老体でしかなかったのだ。

〈「プロレタリア」の錦の御旗を振りかざし、絶対にマイナスではあり得ようはずがない運動を展開してきた日本の既成左翼の歴史を振り切る〉（最首）運動が全共闘であったのなら、それは当然の行為なのだろう。ただ、総破壊と否定を説く〈大逆思想としての〉アナキズムでさえも、何事かの原理的正当性に固執してみずから自己を合理化する時、〈現実に切り込んでいけるという錯覚をともなった政治運動の一つの亜流として登場〉（最首）せざるを得なくなるという指摘は鋭く重い。

テロルー飛翔するペガサス

内容のドラスティックさに比してたんたんとした語り口で進行する物語も、イズミ・ムラキの仲間であり、同時に「レーニンさんの一派」でもあったある学生が共通の敵＝国家権力に対して両派一致してのテロルを主張し、自ら「刺客第一号」として死んでいくあたりからカタストロフを迎えて行く。

刺客第二号を自ら志願して決行失敗して顔に浅い傷をつけられたイズミをムラキは車に乗せて逃げる。

「どこへ行くつもりだ」という大岳の問いに答えてムラキは言う。〈「（前略）まづトラックで吹っとばす。車のきかないところにぶつかったら、船もあるし飛行機もあら。（中略）さあ、まごまごしちゃるられない。」〉

全共闘運動は逃走の徹底化であったという最首のテーゼはここでもあてはまる。

イズミたちを乗せたトラックを見送りながら、大岳は自ら、両の目を刺す。彼は何を見たのか、黙示録の世界へ飛翔するペガサス（＝天馬）をか。つぶした両の目はそれへのみつぎ物か。

とまれ、「大鴉」は落ちたのだ。

しかし「天馬」は飛んだか。

われわれはまだ余りにもプラス的存在でありすぎるのではないか。

忘れよう
逃げよう
生きよう
ライク・ア・ローリング・ストーン

（文中の最首論文は総て「情況三十五号掲載「アドリブ派宣言」より引用。「天馬賊」は著者・石川淳・発行中央公論社・定価七五〇円）

（浮根丸）

真夜中の亡者達へ

「コンバンワ。真夜中にポツンと置き忘れられた、泣き虫なレモンこと、落合恵子ですヨォ」「ヤアヤアコンバンワ……」などの声が、ラジオから常套句のように流れる。うら若き深夜放送の亡者が群らがる。

「闇の文化と言わば言え」など、世の不評に堪えてきたDJ、スタッフたちも、今や立派な「真昼闇の文化」としてまかり通っており、中学生、高校生、受験生と、根強い人気を持ち続けている。

だが、同時に深夜放送の商品化もいつのまにか……。マスコミの商品化など、なにもいま始まったことではない。権力の補完物となり下ったマスコミにとって、その商品化は前提としてあったのだから。深夜放送といえその例外ではないだろう。

だが、深夜放送なるものは、本当に悩める者に一条の光を与えるアリガターイオシエのようなものだったのだろうか。悩む者に共に悩み、受験に対して饒舌を尽そうとも、所詮、現在の社会、教育体系の矛盾を、とりわけ受験制度の矛盾を打ち破るものとはなることはないだろう。

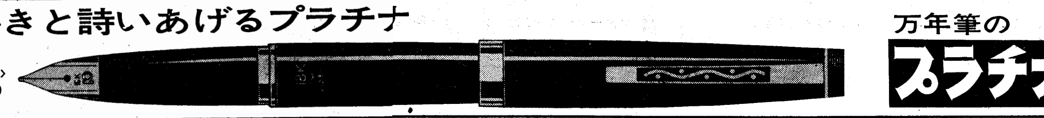
深夜放送は、ある意味では現行の教育体系のヒズミが産んだ副産物とも言える。一般的に言うなら、受験勉強に押さえつけられた若者たちが、そのハケ口を深夜放送に求めたのである。そして、その欲求を器用に操作し、「優等生」として再度社会に送り返す。あえて言うなら、ハミダシ者を当然のようにワクにおさめようとするところに深夜放送のイヤラシさがある。もちろん、深夜放送が受験生活による疎外感を緩和し、教育矛盾の本質そのものを隠蔽するために使われていることは言うまでもない。

いっそのこと、深夜放送なぞやめちまえばいい。イキガッてみたところで「闇の文化」など作れはしないのだから。作ったとしても、饒舌によって矛盾をマッチラケに上塗りした、カッコ付きの文化でしかないし、所詮、一時のオナグサミにしかなりえないものだろう。

今夜もまた、ラジオからシラジラシイ声が流れて来る。深夜放送の亡者たちが群らがる。「常識的」な範囲で語りかける。「常識的」な範囲で手紙を読む。「常識的」に悩み、そして答える。決してその域を出ない。ハミ出た亡者たちがワクの中に戻される。

だが、過ぎ去った過去としてしかそれを視ることのできないわれわれは、亡者たちに向って吐くことばを持たない。ただ、日常を闘うことによって示すのみである。（幸雄）

時の美しさをいきいきと詩いあげるプラチナ



男を主調する重厚なボディ18金ペン付き プラチナ・18〈唐草文様〉 ¥5,000

万年筆のプラチナ

留学あなたの番!!

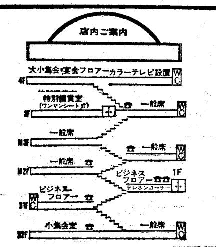
留学

容易にしかも安く行ける海外を学ぼう

留学コンサルタント オレゴン大学出身 加須屋彰

PAN WORLD INC （株）パン・ワールド

TEL (591) 5636 帝国ホテル本館 2167



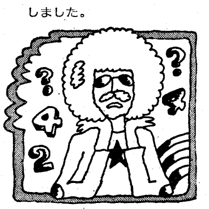
ビクター FULL 4chステレオ。7つの疑問に答えます。

1 肩ひじはらず気軽に聞いてみよう。

「4ch、4chっていうけれど、どんな音なんだろう」と思いながら、1度も聞いたことのない人。世の中にだいぶおくれていますよ。
ぜひ1度新しいSoundの体験を。
ビクター4chステレオは次のところでいつも聞けます。霞が関ビルの隣りのビクター虎の門ショールーム、銀座松坂屋の向いのビクター銀座ショールームです。そしてビクター4chステレオをおいている喫茶店は都内ではお茶の水のサン・ロイヤル、渋谷のペチカ。学校の帰りにでもふらっと寄ってみてください。いっぺんに4chのトリコになってしまいます。

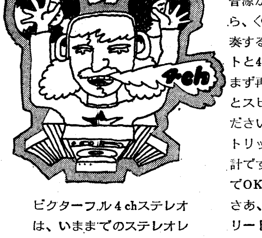
2 聞き方は自由。ビクター4chは参加するステレオ。

4chはスピーカーのおき方ひとつにしても、さまざまなバラエティがあります。これが正しいというおき方はけっしてありません。さまざまに楽しんでください。音がうずまきのようにまわる中で、4ch・soundを楽しみたい方は、スピーカーを四すみに。生演奏のフィーリングや、オーケストラの迫力音を味わいたい方はスピーカー4つを前面にだして。というふうに4chはあなたが参加するステレオです。スピーカーのおき方ひとつでまったく別の音楽が生まれます。「音楽はこれしかないんだ」なーんていう既成概念にとらわれず、さまざまな体験を。



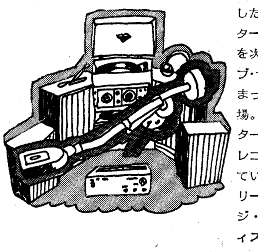
3 ディスクリートかマトリックスか。

ディスクリートだ、いやマトリックスだと4chステレオはやかましいかぎり。そのちがいはどこに？。わかりやすく説明しましょう。赤、青、黄、白という4色の音があるとします。マトリックスでは録音時に赤と青、黄と白を2つの色に混ぜ、再生する時に元の色に戻します。ディスクリートははじめから4色べつべつに録音し、再生します。1度まぜた色を元の色に戻せば、やはりくすんだ色の音しかでないので、ディスクリートのほうがずっと効果的なSoundの体験が味わえるわけです。このディスクリート方式は世界に先がけてビクターが開発しました。



4 いままでのステレオ・レコードを捨てないでください。

ビクターフル4chステレオは、いままでのステレオレコードも4ch効果で楽しめます。せっかく集めたLPが不用になることはありません。SFCS（音場創成装置）を内蔵しているからです。後ろのスピーカーから残響音や拍手が聞こえてきます。ステージ演奏のあの感激がよみがえります。それに、SFCS装置でテープ、FM放送も4ch効果で楽しめます。またビクター4chステレオはマトリックス方式も内蔵しています。だから各社からでているマトリックスレコードもバッチリです。



5 〈CD-4〉レコードには4ch専用針を。

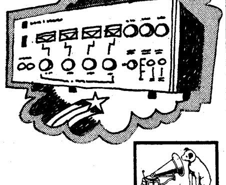
〈CD―4〉レコードは1本のレコード溝に4つの独立した音源が入っています。だから、〈CD―4〉レコードを演奏するためには再生ユニットと4ch専用針が必要です。まず再生ユニットをアンプとスピーカーに接続してください。そしてあとは、カートリッジはもちろん4ch設計ですから、針の交換だけでOK。
さあ、世界で初のディスクリート・4chレコードの世界をさまよってください。別売りの〈CD―4〉4chレコード再生ユニットは37,000円 4ch専用針は7,800円デス。

6 〈長い夜〉もくドック・オブ・ザ・ベイ〉も4chではまったく新しいsoundです。

〈CD―4〉レコード。ディスクリート方式専用の4chレコードです。まったく新しいSoundです。音が渦をまいたように回ります。4chステレオのハードウエアの開発と同時に問題になっていたのが4chレコードでした。「レコードがないからなァ」って声も確かによく聞きました。でもこの9月からビクターでは〈CD―4〉レコードを次々に発売。「ドック・オブ・ザ・ベイ」も「長い夜」もまったく新しいSoundで登場。今年の冬までにはビクターから約50枚の〈CD―4〉レコードの発売が予定されています。これでオープン・リール・テープ、カートリッジ・テープとあわせて、ディスクリート用4chソースも一段と充実しました。

7 もちろん、きみのいまもっているステレオも4chに。

ビクター4chステレオが手軽に買えるからって、むりしてまったく新しい機器を買い入れる必要はありません。きみの2chステレオもバッチリ4chステレオに早替わりします。
4チャンネル・オールマイティ・プリメインアンプMCA―V7という、ちょっと長い名前のアンプと、2つのスピーカーを加えるだけで、すべての4chソースが楽しめます。もちろん2chソースを4ch化するサウンド・フィールド・コンポーザーも内蔵されています。



"HIS MASTER'S VOICE" VICTOR